

7
JULYラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップス
『Amjad アムジャッド』

硬質の張りつめた時空を駆け抜ける9人のダンサーたち。エドゥアール・ロックの新作は古典バレエ『白鳥の湖』、『眠りの森の美女』を過激に解体。ロック固有のマニエリスティックなスタイルでバレエの新たな地平を切り拓く。

© Édouard Lock



エドゥアール・ロック Édouard Lock

1954年モロッコ生まれ、カナダ・モントリオールで育つ。80年、ラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップスを結成。鋭い感覚と爆発的エネルギーで世界のダンス界に衝撃を与える。代表作『アンファント』、『2』、『アメリカ』では世界ツアーを敢行、大きな話題を呼んだ。パリオペラ座バレエ、NDT等への振り付け、デヴィッド・ボウイ、フランク・ザッパのコンサートの演出等、その活動は幅広い。

© Jean-François Bérubé

【日時】7月4日(金)、5日(土)、6日(日)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演目】『Amjad アムジャッド』(2007年初演) 【振付】エドゥアール・ロック

【音楽】ギャヴィン・ブライヤーズ デヴィッド・ラング ブレイク・ハルグリーヴス

【出演】ラ・ラ・ラ・ヒューマンステップス ダンサー 9名 【チケット発売】4月予定

9
SEPTEMBER勅使川原三郎
『Here to Here』

真っ白な布の壁で三方と天井を囲む舞台装置。一切の装飾が排除された空間の中で展開する究極のダンス。勅使川原三郎1990年代の代表作のひとつ。



© Dominik Mentzies



勅使川原三郎 Saburo Teshigawara

クラシックバレエを学んだ後、1981年より独自の創作活動を開始。85年に宮田佳と共にKARASを設立以降、常に世界のダンスシーンで先駆的な活動が続ける。舞台美術・衣装・照明等も自ら手がけ、作品の透徹した美と独自のダンス哲学が世界各国で高い評価と支持を得ている。パリ・オペラ座など著名バレエ団への振付他、映像・執筆等多方面で活躍中。ダンス教育にも力を注ぐ。現・立教大学教授。

© Bengt Wanselius

【日時】9月20日(土)、21日(日)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演目】『Here to Here』(1995年初演)

【振付・美術・照明・衣装】勅使川原三郎 【出演】勅使川原三郎 宮田佳 佐東利穂子

【チケット発売】5月予定

10
OCTOBER

《子供と大人のためのダンス》

「日本昔ばなしのダンス」

3才以上のお子さんから楽しんでいただける公演です。

2006年、2007年に続く「日本昔ばなしのダンス」シリーズ第三弾。お母さんと子どもたちが一緒に楽しめる、からだで感じる昔ばなし。演目は、いまはまだ秘密。お楽しみに。



© Arnold Groeschel

2006年10月公演「日本昔話のダンス」より「ねずみのすもう」(近藤良平振付)

【日時】10月25日(土)、26日(日)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

【振付】近藤良平 森下真樹

【チケット発売】7月予定

11
NOVEMBERナチョ・ドウアト スペイン国立ダンスカンパニー
『ロミオとジュリエット』

スペインの情熱と力強さを湛えたナチョ・ドウアトの『ロミオとジュリエット』。息をのむほどに切なく美しいロミオとジュリエットのデュエットは、舞踊史に残る数々の名版にも勝るとも劣らない。



© Fernando Marcos



© Bernardo Doral

ナチョ・ドウアト
Nacho Duato

スペイン・バレンシア生まれ。ランバート・スクール、ムードラ等で学ぶ。クルベリ・バレエ団を経て、1981年ネザーランド・ダンス・シアター(NDT)に入団。88年にはNDTの専属振付家に就任。パリ・オペラ座バレエ、ロイヤル・バレエ、アメリカン・バレエ・シアター等、世界の主要バレエ団に作品を提供。90年よりスペイン国立ダンスカンパニー芸術監督。過去、2度の来日公演はいずれも大きな話題となった。

【日時】11月22日(土)、23日(日)、24日(月・祝)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演目】『ロミオとジュリエット』(1998年初演)

【振付】ナチョ・ドウアト 【音楽】セルゲイ・プロコフィエフ

【出演】スペイン国立ダンスカンパニー 【チケット発売】7月予定